いずみさの教育 NOW なう

問合先
学校教育課

教育と福祉の一層の連携について

平成30年5月、文部科学省と厚生労働省の連名により「教育と福祉の一層の連携等の推進について」の通知が出されました。この通知の中では「発達障害をはじめ障害のある子供は、（一部省略）学校、障害児通所支援事業所等といった複数の機関と関わっていることが多い」といった現状と、「学校と放課後等デイサービス事業所において、お互いの活動内容や課題、担当者の連絡先などが共有されていない等により、両者の円滑なコミュニケーションが図れず連携ができてない」といった課題が明記されています。その上で、各地方自治体における教育委員会と福祉部局の連携や、学校教職員に対する福祉制度の周知、保護者支援の推進等が求められています。

今後、教育と福祉の連携ツールの一つとして活用の幅が広がると考えられるのが、「個別の教育支援計画」です。これまで「個別の教育支援計画」は、学齢期から社会参加に至るまで、一人ひとりのライフステージにおいて切れ目なく支援を繋ぐためのツールとして、保護者参画のもと各学校において作成されてきました。最近は、放課後等デイサービスや保育所等訪問支援事業、機能回復訓練事業などの関係機関と学校が連携して「個別の教育支援計画」を作成し、一人ひとりの目標、必要な合理的配慮、保護者や本人の思いを共有した上で、具体的な支援を各機関で行うといった例も少しずつ出てきています。

また、平成30年8月より活用が始まった泉佐野市サポートブック「はぐノート」は、保護者と各機関が子どもの情報を共有するためのツールとして、要保護児童対策地域協議会において作成されました。「はぐノート」には、子どもを中心に各機関が手を繋ぎ合い、必要な支援を繋ぐことで、子どもの将来を明るいものにしたい、という願いも込められています。

各機関のより良い連携や支援を繋ぐツールの活用方法について具現化するため、今後も協議を重ね、取組を進めていきます。

学校園紹介

人と人とがつながる保育をめざして ～のぞみこども園～

平成30年4月から「幼保連携型認定こども園」としての運営が始まり、およそ150人の0～5歳児が毎日遊びを通して学び、成長しています。のぞみこども園では、様々な体験の中で自分の気持ちに気づき、相手の気持ちを感じることができるような、心の触れ合いを大切にした仲間づくりをめざし、日々の保育に取り組んでいます。

【めざす子ども像】

- 友達を思いやり、認め合う子ども
- 人の話しを聴き、自分の思いを表現できる子ども
- 興味をもって取り組み、やり抜く子ども
- 自分で考え、自ら行動できる子ども

【大切にしていること】

- 交流活動…毎月0～3歳児と4・5歳児に分かれて誕生会を行い、たくさんの人に祝福してもらう機会を大切にしています。その中で、4・5歳児クラスが順番に0～3歳児の誕生会でお祝いの歌などをプレゼントしています。また、今年度から「祖父母の日」という行事を設け、4・5歳児がクラスごとに祖父母のみなさんと一緒にむかし遊びやふれあい遊びなどを楽しみました。この取組をとおして身近な年配の人とかかわることで、親しみの気持ちをもったり、自分が役に立つ喜びを感じたりすることを大切にしています。
- 子育て支援事業…子育て中の保護者が集ってつながりがもてるように、遊びの教室・園庭開放・施設開放など、地域に根ざした子育て支援事業を行っています。

▶祖父母の日の様子

平和学習（修学旅行の取組を通じて） ～北中小学校～

北中小学校の平和教育は、戦争の悲惨さに気づかせ、平和の尊さを知るとともに、平和を尊重し、世界の人々と手を携えて、世界恒久平和の実現に向けて行動することのできる普遍的価値観を育てることを目的としています。

6年生は、8月6日の平和記念日に合わせて行われる平和全校集会を受け、10月の広島への修学旅行に向けて、原爆の恐ろしさ、平和の尊さを事前学習し、平和への思いを形にする取組を進めてきました。

当日、原爆ドームの姿を見た子どもたちの息をのむ感じが伝わってきました。「下に瓦礫がいっぱい落ちていて、思っていたよりずっとボロボロだった。」との感想に原爆の破壊力のすごさと70数年の時間の経過を感じました。爆心地を回り、広島平和記念公園の原爆の子の像の前で、平和集会を行いました。平和への決意表明、峠　三吉さんの「にんげんをかえせ」の呼びかけ、全校児童で作った千羽鶴の奉納、「ヒロシマの有る国で」の合唱、黙祷。堂々と、大きな声で、平和への思いを表現していました。

平和記念資料館の見学、爆心地に一番近い本川小学校の資料館見学、移動途中にある数々の慰霊碑に学習してきた人の名前を見つけ、平和記念の色紙を飾ったりしました。青少年センターで二次被爆された人の聞き取りをしましたが、しっかり聞くことで話をしてくださる人に応えようする真剣な子どもたちの姿がありました。

広島修学旅行は、肌感覚で子どもたちに平和の大切さを伝える事の重要性を教えてくれます。これからも大切な取組として続けていきたいと思っています。